

## 平成 27 年度 地球環境基金助成事業・県民の環境活動支援事業

## ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」実施報告書（4）

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」 第4回フィールド研修「里山の資源化3」 「今、見直す製炭技術」
日時	平成 27 年 12 月 5 日（土） 8：45～17：00
講師	フィールド研修：「炭窯作業見学」千葉県森林インストラクター 鶴見 治 アシスタント講師：谷当グリーンクラブ 二宮 豊、大越 弘順 講義：「今、見直す製炭技術」 千葉県森林インストラクター 鶴見 治 講義：「豊富な竹資源を利用した竹炭生産の取組」 NPO 法人竹もりの里代表理事 鹿嶋 與一 フィールド研修：「竹パウダー&竹炭製造見学」 NPO 法人竹もりの里代表理事 鹿嶋 與一 アシスタント講師：NPO 法人竹もりの里 島田 年男、鹿間 太郎
会場	フィールド研修：千葉市谷当町 谷当グリーンクラブ活動地 講義：長南町農村環境改善センター研修室 フィールド研修：NPO 法人竹もりの里
出席者	受講生 51 名（欠席 6 名）・主催者 2 名・スタッフ 1 名
報告	8：45～9：45 フィールド研修：「炭窯作業見学」 千葉市谷当町にある谷当グリーンクラブ活動地は純農村地帯とベッドタウンが背中合わせになった都市近郊特有の里山だ。平坦な雑木林を市民に開放し、キャンプや工房での作品づくり、食品の加工体験も楽しめる。訪問した雑木林は主にコナラ、クヌギ、イヌシデが生育し、適度な日の光が入る明るい森との印象を受けたが、日照率は 15 パーセントと実生や萌芽更新からの芽が出て枯れる率が高いそうだ。森の更新には大掛かりな間伐が必要だという。森から出た材から炭を生産している。炭窯見学と作業体験を行った。受講生がやっとの思いで竹の炭材を運んだ。炭窯の背の低さも手伝って作業の大変さが伝わってきた。 11：00～12：00 講義：「今、見直す製炭技術」 「炭を見直す」をテーマにした講義では炭窯の見学を思い出しながら炭の歴史、炭窯の構造と製炭の過程を学習した。木炭の利点は多く、炭を見直すことで利用が進むとエコな社会に貢献できる。炭窯のない里山のできる炭焼き技術について 3 種類の提示があった。竹の猛威にさらされている県内の里山は多い。活用が望まれる。 13：00～16：00 講義：「豊富な竹資源を利用した竹炭生産の取組」 フィールド研修：「竹パウダー&竹炭製造見学」 午後はフィールドと講義。竹もりの里では伐採竹の活用方法について見学した。大型炭化器による竹炭製炭、樹木粉碎機による竹チップづくりである。出来上がったばかりの竹炭と竹チップのお土産つきであった。 講義は鹿嶋講師から竹林整備から竹炭、竹チップの製造、利用について概要を説明いただいた。竹炭、竹チップともに土壌改良剤として、さらに竹チップは家畜用栄養補助資材として利用され、効果が上がっている。 16：30～17：30 バス移動（千葉駅）

添付資料（写真）



谷当町のフィールド



鶴見講師



谷当グリーンクラブ講師



炭窯の全体



竹材は丸めて



窯に竹材をくべる



クヌギ、コナラの森



竹チップ製造



明るく見えても日照率15%



大型炭化器



鹿嶋講師



竹もりの里講師



炭の完成